（別紙4）　　平成　23　年度

1　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2193400021		
法人名	株式会社　エステートホーム		
事業所名	サロン・ド・フレール本巣　1階		
所在地	岐阜県本巣市文殊字天辺959-1		
自己評価作成日	平成23年12月9日	評価結果市町村受理日	平成24年2月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2193400021&SCD=320&PCD=21

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	NPO法人　ぎふ住民福祉研究会
所在地	〒503-0864　岐阜県大垣市南頬町5丁目22-1　モナーク安井307
訪問調査日	平成24年1月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

「こころ豊かに生きる」の理念に基づき、生きがいを感じ、お互いを大切にする豊かな心で生活していただけるよう支援しています。個々のニーズに合わせた個別ケアに力を入れ、
生きがいや役割を一緒に見つけながら、自由にその人らしく生活していただけるよう支援しています。
また、地域の方や自然と触れ合いながら、助け合い認め合えるような関係作りを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

ホーム開設から3年が経ち、自治会の清掃活動や地元行事への参加、日頃の挨拶、ボランティアの呼びかけ等に積極的に取り組み、少しずつではあるが地域とのつながりが深まっている。また災害対策にも力を入れている。総合訓練が年2回、消防署指導のもと地域住民も参加して行なわれている。2ヶ月毎に開催される運営推進会議でも災害に対するホームの取り組みが報告され、参加者に理解と協力を求めている。管理者および各ユニットのチーフは現場職員の声を尊重し、利用者支援に関わる全職員が気づきや意見を出し合い運営に携わっている。それは職員の働く意欲にもつながっており、チームとしてのまとまりを感じる。ホーム理念『こころ豊かに生きる』の考えのもと、利用者一人ひとりの尊厳を大切にし、その人らしい暮らしを支援しているホームである。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を玄関に掲げ職員は出勤時に確認して仕事に入る。又ユニット会議において再度確認しケアーに繋げていける様理念を共有し合っている。	このホームを生活の場とし、地域の一員として生き生きと過ごしてもらうため、独自の理念を作り上げている。実践の裏づけには理念があり、会議などで常に立ち返り職員間での共有を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	絵手紙、お茶の会として地域の方がボランティアに来て下さっています。消防訓練には近所の方や自治会役員の方にも参加していただいています。	散歩途中で近所の方と挨拶を交わし、時には野菜をいただくなど、顔見知りの関係ができつつある。また地域の清掃活動に利用者と職員で参加しており、最近ではホームの存在が認知され介護相談を受けることもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のボランティアさんに来ていただき利用者様と交流を持っていただいたり介護相談員の来訪により利用者様との交流を持っていただいています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設での生活状況や取り組みについて報告し話し合っています。内容については色々意見を出していただきサービス向上につながる様にと取り組んでいます	会議の中で‘地域とつながっていきたい’とのホームの思いが管理者より発信され、自治会長の紹介でボランティアによる抹茶茶会を行なっている。また外部評価の結果や災害対策の取り組みを報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で施設の取り組みやサービスを報告しています。又、介護相談員の来訪にも協力していただいています。	自治体職員が運営推進会議に出席しており、ホームの現状を理解しアドバイスをもらっている。また市役所に相談に出向くことも多い。前回評価の結果をふまえ、介護相談員の活動内容を明確にし目的も確認している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修を行い拘束をしない支援が出来るよう取り組んでいます。玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	身体拘束は行わない方針を掲げ実践しているが、以前にはベッドからの転落防止のため、やむを得ず四点柵を使用したことがある。その際は家族から同意書をとるとともに経過記録を整備し、職員会議でその必要性を繰り返し検討し布団に変更したことがある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修を行なっています。職員同士が注意を払い虐待につながらないように努めています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度の研修を行い制度が必要な方には活用していただけるよう支援しています。現在は活用がありません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は十分に時間を取り、説明を行なっています。利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、理解していただき納得を図っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の代表の方に運営推進会議に参加して頂き、意見を出して頂いています。又ご家族の来訪、面会時にお話を聞く機会を設けています。	家族の訪問が多く、職員が様子を伝え相談する形で意見を聞いている。面会の少ない家族には時折連絡をとり、状況を知らせている。また日頃より、家族が話し易い雰囲気作りに努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者がヒヤリングの場を設け職員の意見を聞いています。会議でも意見や提案を聞き反映をさせている。	管理者および各ユニットのチーフは現場職員の声を尊重するよう心がけており、意見を運営に反映させている。月２回のユニット会議や個別にも、職員が意見や提案、思いを言いやすいよう工夫している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は職員個々の努力や実績などの把握に努め、職員が向上心を持って働けるよう条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社外研修の案内を掲示し受講を勧めたり社内研修で技術・知識が向上できるよう支援と同時に働きながらトレーニングしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	機会が作れず取り組めていません。今後、交流を取り組んでいきたい。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前訪問で家族の思いを傾聴し安心して頂けるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前訪問で家族の思いを傾聴し信頼して頂けるような関係を築けるよう努め		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入する段階で何が必要かを見極め出来る限りの対応に努めている。又サービスは徐々に馴染み、安心・納得しながら段階的な支援に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が全てケアしてしまうのでなく一緒に生活している者として同じことをしていく者同士の関係を作っていくよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会、来訪時に家族の思いを聞き本人の生活や思いを伝えながら共に支えていく関係を築けるよう努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望や要望に答え、環境が許す限り対応に努めている。	入居時のアセスメントや入居後のコミュニケーションからそれまでの生活背景を知り、全職員で共有しケアに活かしている。行きつけの理美容院や決まった訪問マッサージを利用している方があり、個別に支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が楽しく関わり合い支え合えるよう間に入りコミュニケーション図るよう努めています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された後も必要に応じて電話で近況など伺っています。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員が一人ひとりの思いや意向を把握して希望にそえるよう努めている。	コミュニケーションを大切にし、その中から意向を把握している。言葉で表わせない方については、行動や表情から思いを見極めている。3ヶ月に1回のアセスメントで、希望に沿った支援を行っているか確認、検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人に傾聴して職員がコミュニケーションを図りながら日々の生活の中で暮らしを捉えていくよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりのADL、出来ること出来ないこと、生活パターンを把握しながら支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	それぞれ担当職員がアセスメントを行いカンファレンスで職員全員でモニタリングし介護計画を作っています。又本人、家族の要望もお伺いして見直しに努めている。	3ヶ月毎に担当職員がアセスメントを行い、職員会議で他の職員にも意見を求めプランの見直しを行なっている。利用者の重度化が進み今後は医療との連携が必要になってくると思われ、看護師の会議出席を予定している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録を根拠にしながらよりよいケアに向けて介護計画の見直しに生かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	身体的、精神的状況の変化に伴いその時の要望やニーズに対応出来るよう努めています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	2ヶ月に1回絵手紙、月1回のお茶会ボランティアの来訪で創作や抹茶を楽しむ時間を支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までのかかりつけ医のある利用者様は継続していただいています。又当ホームの主治医とかかりつけ医を選択できるよう十分説明に努めています。	協力医の定期的な往診もあるが、本人、家族の希望するかかりつけ医の継続支援も行っている。その場合にも受診結果は共有され、状態の変化に伴う入院もかかりつけ病院へと考慮されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は状態変化や異常に気づき看護師につたえて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療機関に対して本人に関する情報の提供やケアについて報告し、本人のストレスや負担を軽減する事に努めています。面会時には医療関係者と情報交換しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は家族、かかりつけ医等と意向を確認しながら対応していきます。看取り介護の研修を行っています。	看取り指針を明記し契約時に説明している。管理者および一部の職員には過去に看取りの経験もあるが、このホームで利用者が重度化した場合、医師と連携の上、本人・家族の意向に添う支援が行えるよう、全職員で研修を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の対応については職員が慌てず適切な行動がとれるよう会議などで話し合い周知しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導のもと、定期的に訓練を実施しています。地域の方にも訓練に参加していただき協力体制を築いています。	年間総合訓練を2回、部分訓練を2回実施している。夜間想定の2人体制訓練も行われ、消防署のアドバイスや地域住民の参加も得て充実したものとなっている。備蓄も十分整備されている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーに配慮した言葉かけや対応をしています。	日常生活の中で、一人ひとりが心豊かに楽しく毎日を送るという利用者主体の考えのもと、個人の人格を損うことのない細かい配慮ある支援がされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お茶の時間の飲み物、食事の内容、入浴時の洋服、何をしたいか等自己決定できるよう声掛けしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の生活の中でご本人のペースに合わせた一日の過ごし方を柔軟に考えて支援しています。天候や、体調にも考慮しながら行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みや意向、持っている力に応じた支援を行うよう努めています。訪問理容、なじみの理容店を利用して散髪をしていただいています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備片付けを皆で協力して行っています。食事は職員も一緒に食事を摂って会話をしながら団欒のときを作っています。	職員は、利用者ができる事はして頂くという姿勢で、野菜の下準備・盛付け・後片付け等、利用者の能力を活かす場面作りに積極的に取り組んでいる。食事もそれぞれのペースに合せ、ゆったりした支援となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に合わせて必要な食事や水分が取れるよう支援しています。普段から利用者の食物や飲み物の好みを把握するように努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っています。ご本人の力に応じた声掛けや介助をしています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンを把握し、声かけ、誘導を行い、自立に向けた支援を行っています。また、個々の状態に合ったパットを使用していただいています。	できる限りオムツは使用しないという方針で、トイレでの排泄を大切にしている。利用者も布パンツやパットの利用で表情も明るく、自立感を持ってもらえる支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食材を使用して調理したり夕食時にヨーグルトを食べていただいています。毎日、ラジオ体操を行い運動に繋げています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	可能な限り希望に添えるよう努めていますが、ほぼ職員の声掛で入浴していただいています。	基本的には週3回の入浴となっているが、要望に沿った支援も行なっている。乾燥肌の人には体調をみながら決め細やかな対応がされ、また入浴拒否の人には歌を歌ったり、声かけを工夫するなど、個別に支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調と本人のリズムを大切にして休息を取れるよう支援しています。夜は安心して眠れるよう見守り声かけしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが服用する薬について理解し飲み忘れや誤薬を防ぐよう努めています。症状の変化は記録して情報提供し、職員が周知できるように努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに合った役割や楽しみを見い出し、日々の暮らしが楽しみや張り合いのあるものになるよう支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に時間を作って散歩に出かけるよう支援しています。(ご家族との外出もあります)庭への散歩は気分転換に繋がっているので継続に努めています。	日常的に近隣へ散歩に出かけ、地域の人への挨拶や言葉掛けを行い、馴染みの関係へと繋がっている。家族との外食や美容院への外出もあるが、皆で花見や紅葉狩り、お祭りへと出かけたり、近くのスーパーへ買い物に出向く等、楽しみにつなげている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は職員が全て行っていますが、日常的に使えるように配慮しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話をしたり家族に連絡がとれるよう支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日掃除を行い、清潔にして不快な気分にならないよう配慮しています。共用空間には季節感を取り入れています。	居間は南全面がガラス戸のため、冬は採光がよく夏は風通しの良い空間であり、機能的な造りとなっている。利用者の手編みや折り紙工作・絵手紙などの作品が展示され、楽しい空間である。またオープンキッチンがあり、食欲をそそる匂いがただよっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご自分の好きな場所で過ごしていただいています。テレビの前にソファーを据え、テレビでは録画した演歌や懐メロを再生したり、趣味や新聞記事、チラシなどから会話をしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や小物など、今迄利用していた物を持ってきていただき、ご本人が落ち着くような空間を作っています。	居室は各自思い思いの部屋となっている。自室の掃除は職員の見守りの中で、出来ることは自分で行い、出来ないことは支援を行っている。臭いや換気には気を配り、窓ガラスも二重サッシの為雑音も気にならない。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの案内表示、手すり階段、エレベータなど一人ひとりの状態に合わせた環境づくりを工夫し、自立した生活が送れるよう支援しています。		

（別紙4）　　平成　23　年度

1　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2193400021		
法人名	株式会社　エステートホーム		
事業所名	サロン・ド・フレール本巣　2階		
所在地	岐阜県本巣市文殊字天辺959-1		
自己評価作成日	平成23年12月9日	評価結果市町村受理日	平成24年2月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2193400021&SCD=320&PCD=21

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	NPO法人　ぎふ住民福祉研究会
所在地	〒503-0864　岐阜県大垣市南頬町5丁目22-1　モナーク安井307
訪問調査日	平成23年1月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

「こころ豊かに生きる」の理念に基づき、生きがいを感じ、お互いを大切にする豊かな心で生活していただけるよう支援しています。個々のニーズに合わせた個別ケアに力を入れ、
生きがいや役割を一緒に見つけながら、自由にその人らしく生活していただけるよう支援しています。
また、地域の方や自然と触れ合いながら、助け合い認め合えるような関係作りを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を玄関に掲げ、職員は出勤時に確認して仕事に入るようにしている。毎月のユニット会議時に理念について教育を行い実践できるように話し合っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方がボランティアとして、毎月のお茶会、三ヶ月毎の絵手紙の講師として見えています。消防訓練にはご近所の方や自治会役員の方に参加していただいています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の交流会などを通じ、認知症の人の理解や支援方法を話している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では施設での生活や、取り組みについて報告し話し合っています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で施設の取り組みなどを報告しています。介護相談員の方にも訪問していただき交流をしています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修を行い拘束のない支援が出来るように取り組んでいます。玄関の施錠はせずその都度一緒に出かけるなどの支援をしています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修を行なっています。職員同士が注意を払い、虐待につながらないように務めています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度については研修しています。学ぶ機会を持ち活用し支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分に時間をとり、施設長、ケアマネージャーが説明を行なっています。家族の不安や疑問点を尋ね、理解していただけるよう説明を行なっています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の代表に運営推進会議に参加していただき意見を出していただいています。面会時にお話を聞く機会設けています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事業者がヒアリングの場を設け、職員の意見を聞いています。会議においても意見や提案を聞き反映できるように務めています.		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員個々の努力や実績などの把握に務めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社外研修の案内を掲示し受講を勧めています。社内研修で技術、知識が向上できるように支援しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ内においてケアマネージャー会議、チーフ会議での交流を行い、勉強会を開きサービスの向上に務めています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前訪問で本人の思いを傾聴し安心して頂けるように務めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前訪問などで家族の思いを傾聴し信頼して頂けるような関係を築けるよう務めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービスについても情報提供しながらより良いサービスを利用できるようお話をしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者と共に生活をしているという意識を常に持って接し、出来ることを一緒に行い、出来ないことを支援しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時やケアプラン作成時に家族の思いを聞き、本人の生活の様子（近況報告）を伝えながら良い関係を築けるように務めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望で行きつけの歯医者に出かけています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が楽しく関わり合い支え合えるように、レクレーションなどはなるべく全員が揃った状態で行える等工夫をし支援しています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所され他の施設に移られたあとも電話などで近況などを伺っています。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様、家族の方との会話の中から思いや意向を把握し希望に添えるように努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人に聞いていますが、情報量が十分でないので面会時などに情報の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の一人ひとりのADL、出来ること出来ないことの生活パターンを把握し支援しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各担当職員がアセスメントを行い、ケアカンファレンスで職員全員でモニタリングを行い介護計画を作っています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、申し送りなどに日々の生活の様子、体調の様子等を記入し情報を共有しています。支援の見直しや介護計画に生かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新たなニーズに対してはその都度話し合い対応できるように努めています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	域資源を把握し地域の人と一緒に暮らしていけるよう取り組んでいきます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までのかかりつけ医と当ホームの主治医とを選択できるよう説明に努めています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は気づき、異常などを看護職に申し送りなどを利用し連携を密にし、相談できる体制にあり利用者が適切な受診が受けられるように支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供を行い、安心して入院治療できるように面会に行って病院関係者との情報交換をしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り介護の研修を行なっています。重度化の指針を作成しご家族へ説明しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の初期対応については、会議で話し合い周知していますが実践力は身に少し不安があります。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導の下定期的に訓練を実施しています。地域の方にも訓練に参加していただき協力体制を築いています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳を大切にし誇りやプライバシーに配慮した言葉掛けや対応をしています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できる場面を作っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	天気、体調などを考慮しご本人の希望に沿って支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしいおしゃれが出来るように支援しています。訪問理容を利用して散髪をされています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	コミニュケーションをはかりながら調理の下ごしらえ、盛り付け片づけなどを一緒に行なっています。食事を楽しめるよう一緒に食事をし、団らんの時間を作っています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に合わせ、食事量を決めています。食事量、水分量は、毎日チェックしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の力に応じた声かけや介助を行い毎食後の口腔ケアを行なっています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表など利用し、排泄パターンを把握しトイレでの排泄が出来るよう自立に向けた支援を行なっています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝ラジオ体操を行い運動することを心がけています。朝食時にヨーグルトを毎日食べていただいています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人の体調に合わせて可能な限り希望に添えるように努めています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調に配慮し本人のリズムを大切にしながら過ごせるよう支援しています。夜は眠くなるまでリビングで過ごしていただき安心して眠っていただくよう努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的、副作用などについては理解し服薬の支援をしています。症状の変化は申し送り等に記録して皆が周知出来るように努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの力を生かした役割を生きがいにつなげられ、一日を楽しく過ごせるように支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の意向や満足を第一に考え、体調に合わせて散歩や買い物に出かけられるよう支援しています。家族や地域の人々と協力しての外出の支援は出来ていません。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は職員が行なっています。日常的に使えるように配慮しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話を掛けたり連絡が取れるように支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日掃除を行なって清潔にし、季節を感じていただけるように行事などに合わせた飾りつけをしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご自分の好きな場所で過ごしていただけるようにソファーの位置を工夫し配置しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や小物など今まで使用していた物を使用していただき、ご本人が落ち着くような工夫をしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	わかりやすい表札やトイレの表示など一人ひとりの力に合わせた環境づくりに工夫しています。		